

令和5年（2023年）12月定例議会本会議（12月14日）

都市整備常任委員長報告（所管事務調査・他都市調査）

ただいま議題となっております行政部門別常任委員会の所管事務調査について、都市整備常任委員会における調査の経過と結果を報告します。

まず、委員会は、5月18日会議を開き、今年度の他都市調査の日程を決定し、続いて、6月12日会議を開き、調査テーマに関する協議を行いました。

次に、9月4日会議を開き、隅田公園における公共空間利活用促進についてを調査項目として東京都墨田区、港湾の多機能化についてを調査項目として福井県、空き家等に対する取り組みについてを調査項目として愛知県瀬戸市を視察することを決定しました。

その後、9月21日、25日の2日間会議を開き、調査項目に関する本市の状況等について関係部局から説明を聴取し、質問を行いました。

このように調査項目に関する理解を深めた後、10月16日から18日までの3日間で視察を行いました。

また、これを受け、12月4日会議を開き、委員間で意見交換を行

いました。

主な意見を申し上げますと、まず、隅田公園における公共空間利活用促進については、

- ・行政職員自ら公園の利活用を体験し、電源スポットの設置などユーザー目線に立った取り組みを行っていたことが画期的であった。

という意見、

- ・公園内のイベント広場がフラットな土地であり、車での物品搬入の容易さや来場者の安全確保の点からイベント開催に適していると感じた。

といった意見がありました。

次に、港湾の多機能化については、

- ・新港地区新規埠頭と規模が近い敦賀港の鞠山南地区にはコンテナヤードとガントリークレーンがそれぞれ1機あった。本市はガントリークレーンの設置はないと思うが、完成自動車の輸出やROR船による物流事業への参入のためにも、本埠頭にはコンテナヤードの確保が必要だと感じた。

という意見、

- ・敦賀港は、県直轄で国と直接やりとりができる反面、小回りが利

かない部分もあるとのことだった。本市が新規埠頭を新たに作るに当たって国や県との連携は非常に大切なため、国や県とのやり取りについて参考になった。

といった意見がありました。

次に、空き家等に対する取り組みについては、

- ・瀬戸市と周辺の都市では空き家を狙った空き巣が多発していることから、防犯の観点から自治会が空き家物件の把握に協力しているとのことで、本市においても町内会や自治会と連携して取り組むことが大切だと感じた。

という意見、

- ・借り手側の立場になって移住政策を積極的に行っていた。また、本市よりも早く空き家対策協議会を設置しており、地域の特徴や性質に違いはあると思うが、スピード感も含め、真似できるところは真似をし、民間企業との連携もより強固にしていけば空き家対策のプラスになっていくのではないかと感じた。

といった意見がありました。

そのほか出席できなかった委員からは、

- ・委員間で意見交換をしたことで視察に行けなくても行ったかのよ

うな臨場感があった。また、会議録に残ることで、本常任委員会の視察が有意義に行えたということがわかるのではないか。

といった発言がありました。

以上のおり、委員から様々な意見があり、このたびの所管事務調査で得た知見は、今後委員がそれぞれの議会活動に活かしていくこととし、本調査を終了します。

以上で報告を終わります。